

スポーツ × 地域活性化

明治大学経営学部小関ゼミ
スポーツ班

あじえんだ

1. 研究概要
2. 日本のプロ野球独立リーグについて
3. 聞き取り調査報告
 - ①香川オリーブガイナーズ
 - ②神奈川フューチャードリームス
 - ③栃木ゴールデンブレーブス
- 4.まとめ



研究概要



地域を拠点とするスポーツチームは地域活性化にどのように関わり、貢献しているのかを調査する。



スポーツチームによる地域活性化の今後の可能性について研究する。

日本のプロ野球 独立リーグ について

独立リーグ全体の目的

- ・野球選手の育成
- ・地域社会の発展



聞き取り調査報告



チーム名	香川オリーブガイナーズ	神奈川フューチャードリームス	栃木ゴールデンブレーブス
取材日	2025/8/4	2025/11/6	2025/11/19
所属リーグ	四国アイランドリーグplus	ルートインBCリーグ (West)	ルートインBCリーグ (East)
設立年	2006年3月	2019年2月	2016年3月

香川オリーブガイナーズ

主な仕事内容

①試合やイベントの運営

- ・今季はたった5人で運営
- ・行政やスポンサー企業と連携
- ・県内の学校（小中高）と探求授業の形で連携も

②スポンサー企業への働きかけ

- ・収益的に厳しいので、電話で飛び込み営業
- ※断られるのが80%ほど



[四国アイランドリーグplus データサイト | 香川
オリーブガイナーズ 2021年度データ](#)

地元香川との関わり

- **① 子供たち、学生**

→ 探求授業でガイナーズがよくなるにはどうすればいいか一緒に考える

→ 試合当日にも運営やブースでアンケートなど実践的な学び

- **② スポンサー企業**

→ ほぼ県内の企業

→ 球団が成長して見える未来に協賛して寄付してもらう

→ 探求授業のスポンサーも(他球団にない強み)

スポンサー企業との関わり

- スポンサーによってニーズはバラバラ
→球団のビジョンを話して、メニューの中から選んでもらう形
☆スポンサー企業のニーズをはき違えないことが重要！！
- 未来を担う若い世代に価値を提供する
→まずガイナーズを知ってもらうことから
☆冠試合→入場料無料で入れ、野球とスポンサー企業の両方をよ
り宣伝できる

ガイナーズの今後の目標

- **現段階** → 野球の楽しさを知ってもらう時期
→ 冠試合、ブース設置など試行錯誤
- **これから** → 有料試合にして自立的な運営を目指している
もっと運営の人数を増やすことが急務
探求授業も県内をはじめとして岡山、神奈川でも開催予定

神奈川 フューチャードリームス

インタビュー

2025.11.06

[球団設立経緯]

設立年：2018年
リーグ加盟：2020年
活動拠点：神奈川県全域
親会社：FDIホールディングス
(Future Dream Incubation)

「**神奈川県民とともに成長を続け、**
子どもたちや選手ならびに関わる全ての人たちと
共に未来の夢を育む球団」



オーナーの思い

野球は好きだったが、家庭環境や
様々な条件により、小さい頃に野球に
触れる機会がなかなかなかった。

いまだに同じことが多く起きている
ため、子供たちのために何かしたい！
楽しさを知ってほしい！

地域貢献活動

01

神奈川ゆかりの 人材

神奈川出身の選手（5割）
や出身校が神奈川所在の
選手と積極的に契約

02

地域支援 パートナー制度

県と県内17つの市町村と
パートナー締結
野球教室やイベント開催、
場所の優先利用など相互的
(資金援助なし)

03

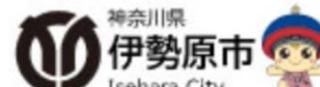
スポンサー契約

県内企業との契約に力を入れ
ている。冠試合やブース出
展、イベントへの選手派遣、
セカンドキャリア受け入れな
ど相互的（資金援助あり）

[地域支援パートナー]

事例

■ 地域支援パートナー



～皆様に日頃の感謝を込めて!～
該当市町村にお住まいの方・中高生無料ご招待

試合招待

市民Day特別チケット

- ・該当市民の方：無料招待（通常1,300円）
- ・中学生、高校生：無料招待（通常800円）

[まとめ]

- ▶ 子供たちや神奈川への思いが熱い
- ▶ 来場者数やファンの数、売上といった数値だけが全てではない
- ▶ 全活動が地域貢献につながっている

栃木ゴールデンブレーブス

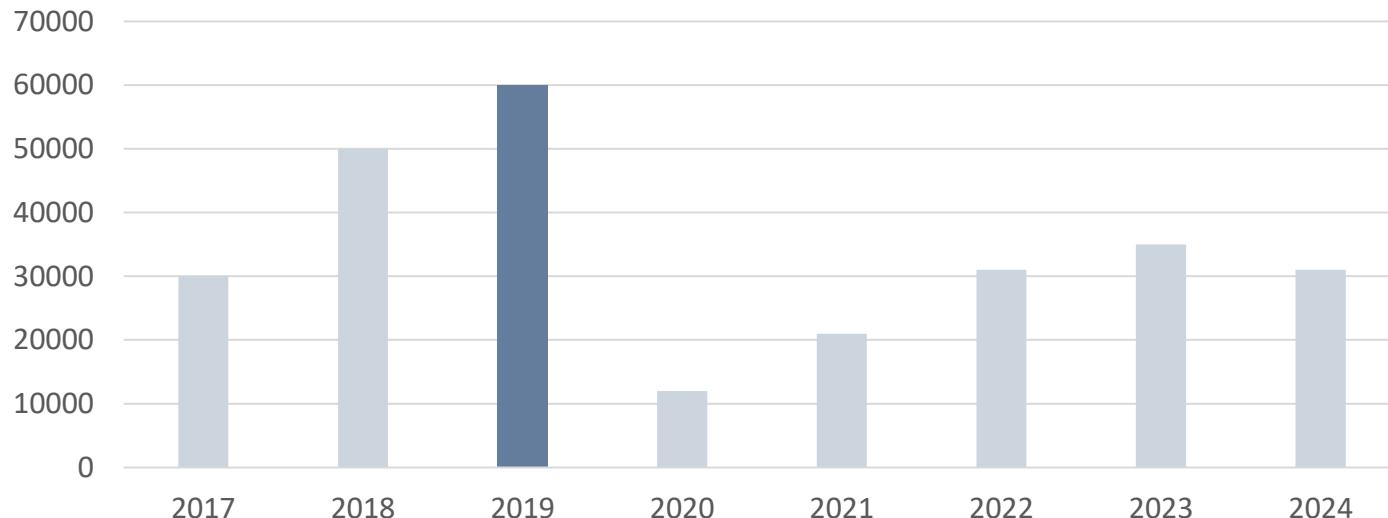
【球団概要】

親会社:エイジエック(人材派遣)

発足:2016年11月

球団経営:独立採算制

観客動員数:BCリーグトップ



年間58試合
(ホームゲーム29試合)

※2020年は
コロナの影響で12試合のみ

選手の紹介



村田修一

- ・横浜ベイスターズ
- ・読売ジャイアンツ

日本代表(08,09)



西岡剛

- ・千葉ロッテマリーンズ
- ・ミネソタ・ツインズ
- ・阪神タイガース

日本代表(06,08)



川崎宗則

- ・福岡ダイエーホークス
- ・シアトル・マリナーズ
- ・トロント・ブルージェイズ
- ・シカゴ・カブス
- ・福岡ソフトバンクホークス
- ・日本代表(06,08,09)



高岸宏行

お笑い芸人
ティモンディ
“やればできる！”

始球式で芸能界最速の148
キロをマーク

球団発足の背景

スポーツ選手のセカンドキャリア事業
→NPBは毎年約120人が入れ替わる厳しい世界

BCリーグ参入のメリット

- ① 地域密着によるブランド力の向上
- ② 社員のモチベーションアップ
- ③ 企業の認知拡大



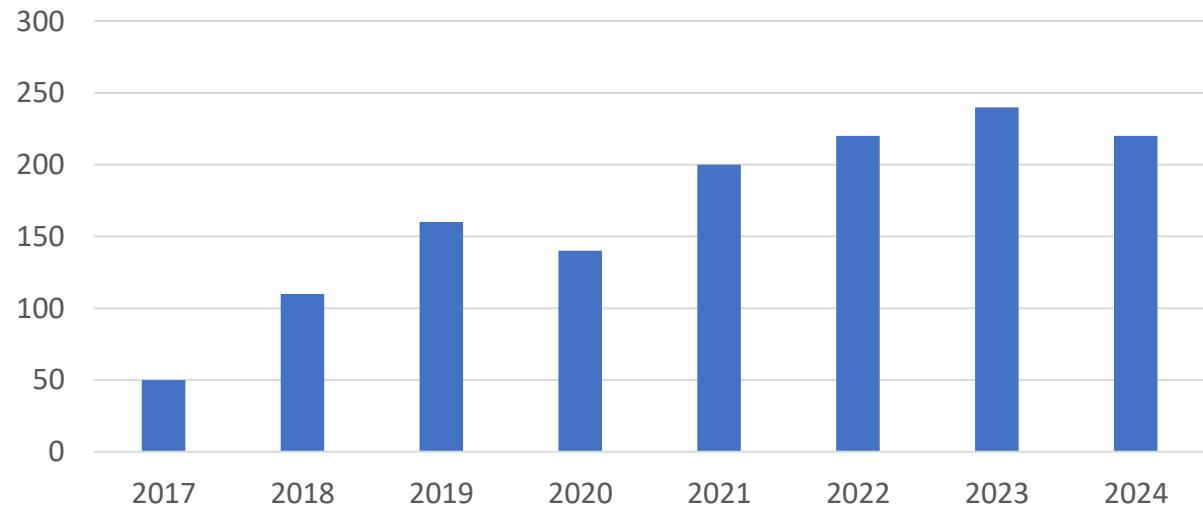
資金調達方法

- 主にゲームスポンサー
 - 企業PR
 - 社員のリフレッシュ
 - チームとの距離感が近づく

9割は営業
で獲得



スポンサー数の増減

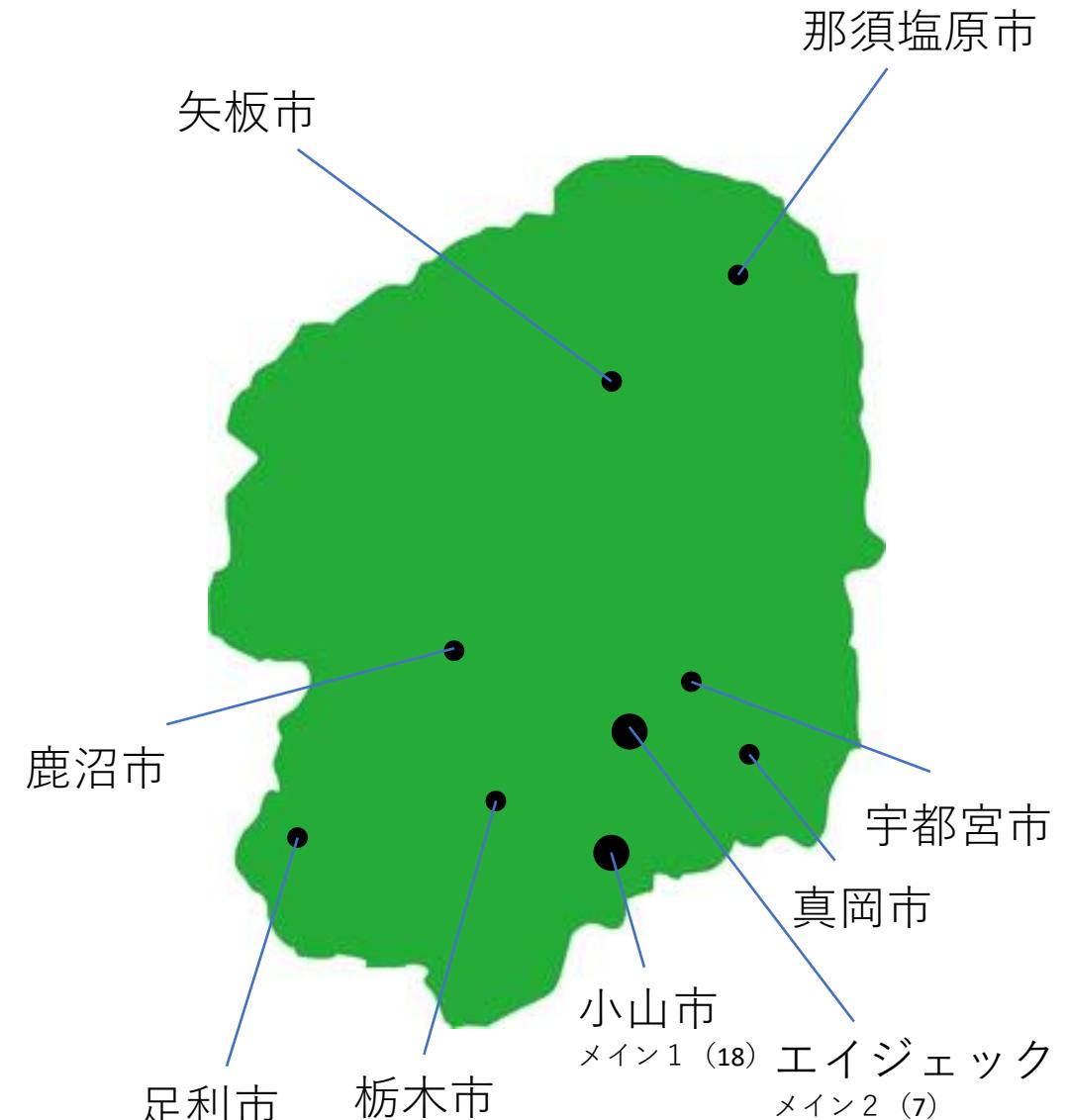


地域貢献活動

- ・地方球場での試合開催
- ・野球教室
- ・学校の授業で指導(春・秋)
- ・コロナワクチンの運営

【主な狙い】

- ・認知の拡大
- ・地域密着
- ・5年後、10年後に向けた施策



今後の展望

栃木県のスポーツを盛り上げる

- ・野球・サッカー・バスケットボールのコラボイベント
→それぞれ現在の企業資金では開催困難



- ・資金不足
- ・選手層
- ・球場問題
- ・ファンの分散

各球団まとめ

- 香川オリーブガイナーズ
- 2006年設立
- 新体制になって間もない
- 来場者はほぼ県内の方
- スポンサー や行政とのやり取りに力を入れている印象
- 栃木ゴールデンブレーブス
- 2016年設立
- 親会社の事業のひとつ
- 観客数No.1
- 来場者の出身地(県内 : 県外)
- コロナ前 1 : 1
- コロナ後 4 : 1

共通点

- リーグの順位よりもNPB指名やセカンドキャリア支援に力を入れている
- 設立時の運営の人手不足(香川5人、栃木3人)
- →飛び込み営業など
- 小中学校の授業のプロデュース
香川→地元企業とコラボした探求授業
栃木→体育の授業に球団から指導員を派遣(からだの動かし方)

まとめ

- ・地元企業のスポンサーや自治体との連携を密にとっている
- ・地域活性化やセカンドキャリアの支援など幅広い役割を担っている
- ・数値では測りきれない魅力が詰まっている

参考文献

- ・一般社団法人 日本独立リーグ野球機構ホームページ [IPBL Japan](#)
- ・[香川オリーブガイナーズ - 香川オリーブガイナーズはプロ野球やメジャーリーグを目指す選手育成の場である日本独立リーグ、四国アイランドリーグplusの公式球団です。](#)
- ・[【公式】神奈川フューチャードリームス | BCリーグ](#)
- ・[【公式】栃木ゴールデンブレーブス | 栃木県民球団 | BCリーグ](#)

全て2025/11/28アクセス